

第一步

竹原市立忠海小学校
第6学年 仁井原 匠海

第一歩

竹原市立忠海小学校 六年 仁井原 匠海

五月二十七日に、オバマアメリカ大統領が

広島を訪問しました。そこで、オバマ氏が

「核なき世界 追求する勇気を」

と慰霊碑の前で訴えました。僕は、それを見

たとき、

「なぜ、オバマ大統領が広島を訪問しただけ

なのに、こんなにも大きなニュースになる

のだろう？」

と疑問に思いました。そして、被爆者の人達

と握手をしている姿を見たとき、

「オバマ大統領が被爆者と握手をする意味は

何だろう？」

と考えました。

その日、疑問を父に投げかけ、オバマ大統

領が広島に祈りを捧げる意味を教えてください

ました。原爆を落とした国であるアメリカの

大統領が広島に来るといふこととその大統領

と被爆者が握手をすることが、広島にとって

け大きな意味を持つことを知りました。ア
 リカでは「被爆者に謝罪すべきではない。
 という意見も多いのだと知りました。
 僕は、四年生の時に、平和記念公園へ見学
 に行きました。その時、「原爆はこわいな。
 「二度と、原爆を落としてほしくない。」と思
 いました。か、今日、オバマ大統領が広島に來
 てから、「核兵器」のいろいろな考え方を知
 り、僕自身ももう一度、核や平和について考
 えていかないとはいけなはいなと思いました。

次の日の地元の新聞には

「謝罪さけ」「未来へ演出」という見出しや、
 「核廃絶 具体策欠」と「核兵器廃絶の出発
 点に」。「被爆者ら」「勇気に敬意」と「モア
 決意刻む」

「被害者」共に前進を促すという見出しがあり
 ました。他にも有名な人の意見もありました。

「機運醸成を」と

と松井市長。

「世界に共感得られる」と

と水本和実氏。

「プラハ演説より後退」

と直野祥子氏。

これらの見出しの中で一番印象に残った

のは「核兵器具体策欠く」です。理由は

歴史的な出来事なのに批判する内容だから

です。社説には「核兵器なき世界への意思

を唱えに七年前のプラハ演説からの前進は見

えない。歴史的な訪問を果たしに核超大国の

指導者の決意としてはあまりに物足りな

かったと書いてあります。

ほくは「核兵器を落とされに広島に住む一

人として「核兵器なき世界」をすぐにも

実現してほしいと思います。批判的に考えて

いる人の気持ちも分かります。「謝罪してほ

しいない」という気持ちもあります。けれども

ほくは「核兵器を落とすにアメリカの大統領

であるオバマ氏がアメリカの様々な意見があ

る中、広島に来て祈りを捧げ「被爆者と握

手をして言葉を交わした意味は大きく、ア

ン

リカの大統領としてにけてはなく一人の間として、尊敬しい状況の中でも、感謝しいです。ほくは、難しい状況の中でも、自分のできることを一歩一歩進めていくこそ、平和な世界への第一歩なのだと思います。アメリカの大統領の第一歩は、広島に来て祈りを捧げにことばです。ほくの第一歩は、平和について考え、自分ができることを探し、ていくことばと思います。

〈指導者の言葉〉

本作品は日々の日記から生まれた作品です。日頃から行事などのめあてやふり返り，新聞作り，礼状などを通して，書く活動をおこなっています。

国語科，社会科，総合的な学習の時間などでは，新聞の見出しを参考にしながら，題をつけたり，まとめたりする学習を積み重ねてきました。児童は自然に新聞に興味を持つことができました。

本作文の作成にあたり，新聞を引用しながら読み手を意識し，読む人に自分の考えが伝わるように立場を明確にして書くために，次の3点に留意して推敲し指導をおこないました。

- ①意見の異なる見出しを引用し，自分の考えを明確にすること。
- ②事実，疑問，経験，意見と構成を考え，論を展開すること。
- ③伝えたいことを端的に文章にすること。

本作文が学級活動や道徳の時間などあらゆる学校生活で「平和」について考えるよい教材になると考えています。